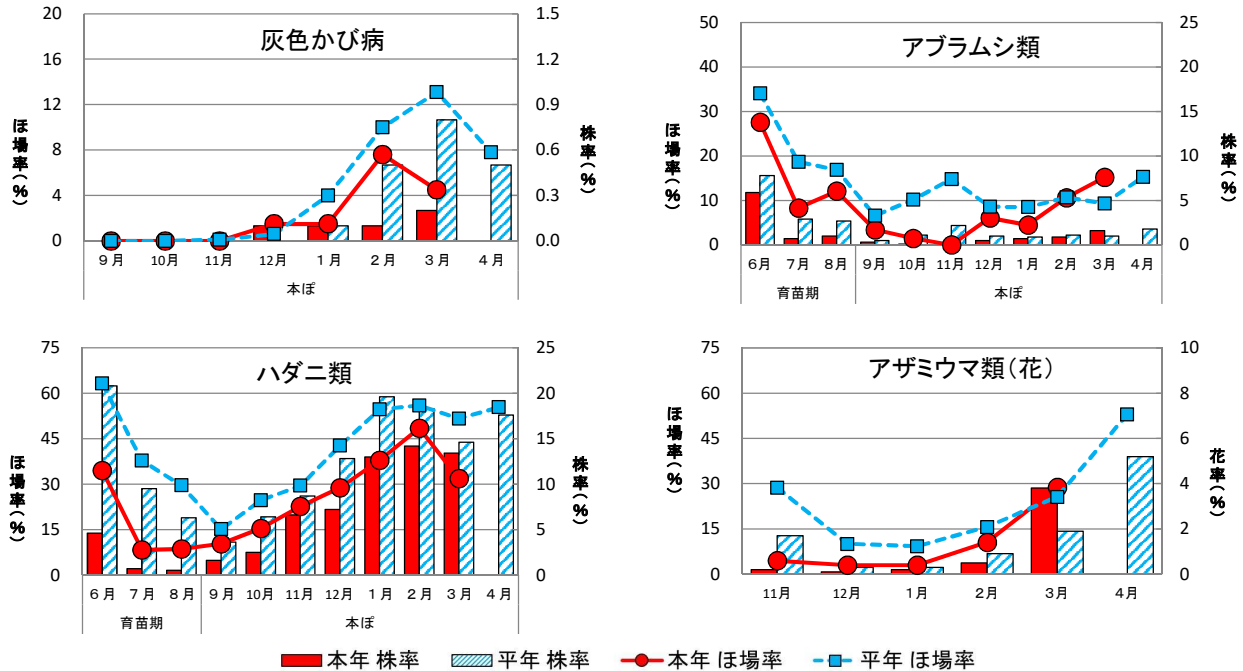


■ 病害虫の発生状況

- ・ 灰色かび病の発生はやや少ないです。
- ・ ハダニ類の発生は平年並み、アブラムシ類、アザミウマ類の発生はやや多いです。



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

1 灰色かび病

- (1)発生予想 ・ 発生量：平年並
- (2)対策 ・ 老化葉などを除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 予防を主体にペルコートフロアブル(F:M7)等を散布する。
- (3)備考 ・ [灰色かび病薬剤感受性結果①、②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 アブラムシ類

- (1)発生予想 ・ 発生量：多い
- (2)対策 ・ 発生が見られる場合はベネビアOD(I:28)等を散布する。
・ ほ場内外の雑草は発生源となり得るので除草する。

3 ハダニ類

- (1)発生予想 ・ 発生量：やや多い
- (2)対策 ・ 天敵導入ほ場では、ハダニ類の発生状況をよく観察し、必要に応じて追加放飼する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。その際、天敵導入ほ場では、天敵への影響を考慮する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (3)備考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 アザミウマ類

- (1)発生予想 ・ 発生量：多い
- (2)対策 ・ 低密度のうちにカウンター乳剤(I:15)等のIGR剤を散布する。
・ 発生密度がきわめて高く天敵製剤で抑えきれなくなった場合は、ディアナSC(I:5)等の散布を行う。
- (3)備考 ・ 秋期にアザミウマ類の発生が多かったほ場は注意する。
・ [防除のポイントNo.19](#)を当センターHPに掲載中。
・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果、続報](#)を当センターHPに掲載中。

■ 今月のトピックス アザミウマ

アザミウマは様々な作物に寄生する小さな虫で、いちご栽培においても重要な害虫となっています。県内いちご栽培ほ場における主要種はヒラズハナアザミウマ(図1)とミカンキイロアザミウマ(図2)の2種で、ともに体長は1~2 mm、幼虫(図3)は黄褐色の体色を持ちます。両者とも非常に似た外見を持ち、現場での識別は困難です。



図1 ヒラズハナアザミウマ成虫



図2 ミカンキイロアザミウマ成虫



図3 幼虫

これらのアザミウマはいちごの花に寄生し、成虫と幼虫が花床を中心に食害します。寄生花をルーペでよく観察すると、紡錘状の小さな虫が確認できます(図4)。生きている場合、軽く息を吹きかけると動き出します。



図4 寄生花(赤円部がアザミウマ)

アザミウマの被害を受けた花は、花卉が褐変して縮れ(図5)、花床をひどく食害されると不稔となります。被害果実の表面はカスリ状に褐変し、商品価値がなくなります(図6)。

アザミウマは3月以降の気温上昇に伴いハウス内外での発生数が増加してきます。ほ場内を定期的に見回り、発生を認めたら防除を行いましょう。



図5 被害花



図6 被害果実